

編集部メモ

■第一回運営委員会を開催（7/3 アイネス）

総会で、これまで拡大事務局会議と称する中間機関のようなものを不定期で開いてきましたが、「位置づけがあいまいだ」ということで、正式に設置したものを。手伝いたい、参加したいと思う人は誰でも参加できる中間決議機関。これからの課題や具体的方針を話し合うというもの。

まあ、ようやく組織らしい構図になってきたとは言え、市民運動の討論のしぐみの素晴らしさと、手間ひまかかる作風は、しっかりと守られている。

■井戸端民主主義はみんなの疑問から

だから、話し合いはあっちこっち行ったり来たりする。いったん終わったと思っていたことも「さっきのあれねえ、こうしたらどうかしら？」と誰かが言えば、又ふり出しに戻って話し合う。まことに手間ひまかかる。これが原初的な民主主義＝井戸端会議の姿なのだと思う。

突然司会をしていた代表が「私は提案側で説明をするのに、司会までやるのは、やりづらいわね」とつぶやくと、すかさず白杵の若いおばさんが「そんなの交代でやればいいよ」と突っ込む。「そんなら、今日はあなた司会やってよ」と反撃。「いいわよ、次回からは回り持ちね」と即決。恐るべし井戸端会議。決めるときは、キチンと決められるのだ。

■運営委員会（井戸端会議）にあなたもおいでよ！というのが本稿の趣旨。

できるだけ多くの原告応援団に参加して欲しい。会議のお知らせは、メールで周知する。

第2回運営委員会は、9月4日（金）大分市コンパルホール312号室にて18時から。

■「原告・応援団の声」原稿募集します。

締め切り2021年1月末日

これも井戸端会議で決まったこと、みんなのいろんな思いを寄せていただき、共有していこうというもの。テーマは①3.11から10年、今思うこと、②伊方原発を止める大分裁判にかける思い③その他「反原発、脱原発」に関すること何でも。400字以内で事務局の森山さんへ、メール又は文書で。順次裁判ニュースに掲載していく予定です。

■「託送料」とは何じゃ？とグリーンコープの宇都宮理事長（応援団共同代表）に聞いた。

電気の発送電分離ともなっていて、すべての売電業者が送配電会社に支払う電線使用料ということらしい。当然国民が支払うことになる。問題はその託送料に原発開発関連費用や廃炉費用をもぐりこませている疑いがあるとのこと。知らない間に、全国民に原発推進にかかわる費用を払わせていることになる。発

送電分離にかこつけて「そんな悪だくみをするとは断じて許されん」と怒りを覚える。グリーンコープ電力は「不当な電気料金だ」と裁判の準備を進めている。脱原発を標榜する野党は市民とともに糾弾に立ち上がるべきではないか。

■『『ふくしま原発作業員日誌』片山夏子著は、なかなかのものだよ』と森山事務局長に薦められた。

後期高齢者にはちときつい分量だが、何とか読了。3.11後9年間にわたり廃炉に向けて最前線作業員のたたかひの記録・生の声をひろい集めたもの。東京電力や元請大企業の理不尽な計画に振り回され、線量計の数字におびえながらも、生命を削るように「俺たちがやらなければ」というプライドをふるいたたせて日々をすごす。

2次・3次・4次の下請けになるほど中間マージンをとられ、手にする日当は、どんどん減っていく。そして、総線量が設定



をこえると即解雇。何の保証もない。家族崩壊や離婚がふえる。そのリアリティに圧倒されるが、原発そのものの原罪性を改めて感じる。政府や大企業の非人間性になすすべのない悲しさも覚えてしまう。

■新しいリーフレット、活用していきましょう。

これまでのリーフレットにより、569名の原告と約

200名の応援団へと裁判の会の運動が広がって来ました。丸4年経過し、状況も変化してきましたので、新しいリーフレットを作成しました。グリーンコープメンバーで原案を作成、その後編集委員会で検討を重ね、イラストを高木章次さん、デザインを河野直子さんに協力いただきました。

放射能汚染地図を見ると、愛媛県庁のある松山と、大分県庁のある大分市は伊方原発からほぼ同じ距離（60km超）です。活用することで、より多くの人に私たちの運動を理解し、協力してくれる仲間を増やしましょう。

■編集後記■

子どものころ「鉄腕アトム」は私の憧れだった。「空をこえて、ラララ星のかなた」で始まる主題歌には「心やさしい、ラララ科学の子」というフレーズがあったせいか、「原子力」という「科学の力」は「心やさしい」ものだと思っていた。

3.11のあの日、原子力は決してやさしくもないし、正義でもないと思い知らされた。「鉄腕アトム」は今でも私の心の中のヒーローだけれど、原子力は怖い。お茶の水博士がいれば！と水蒸気を噴き上げて爆発する原発の映像を見ながら思った。

<藤田>